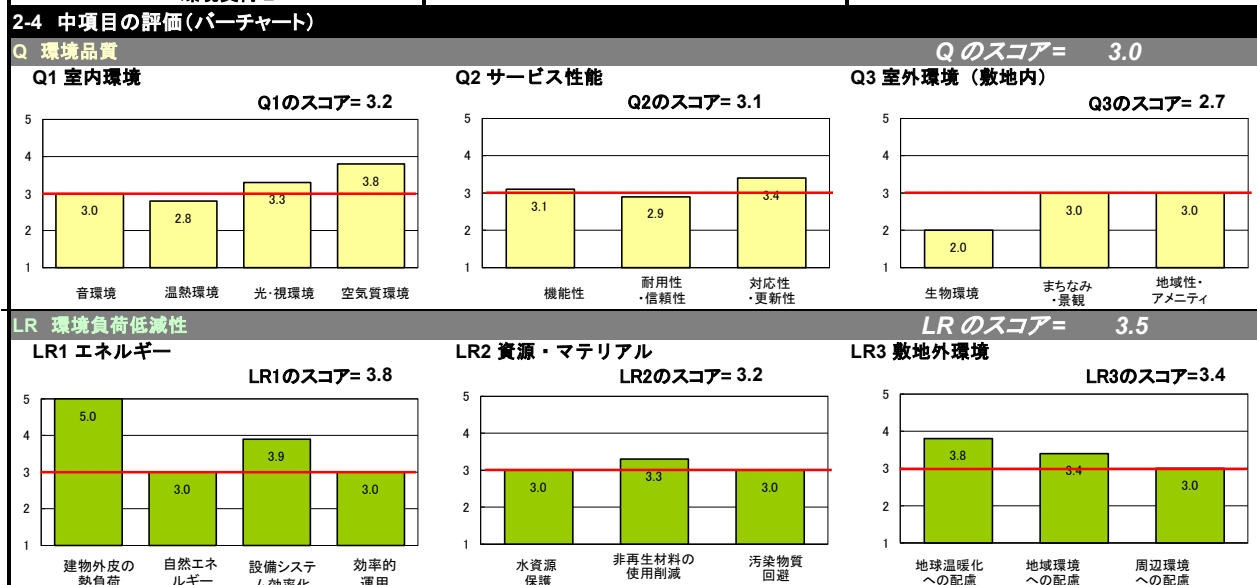
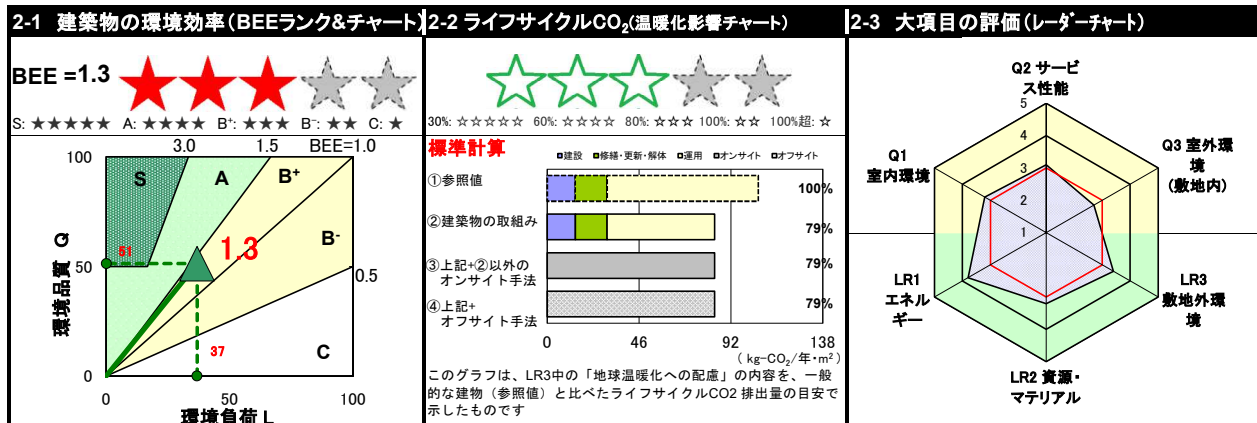


CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂) 名古屋環境研究所環境政策研究センター 7-2-7 A7-2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	OKB大垣共立銀行大曽根支店	階数	地上5F
建設地	名古屋市区大曽根二丁目201番.202番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	185 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2026年8月21日
敷地面積	835 m ²	作成者	
建築面積	531 m ²	確認日	2026年8月24日
延床面積	2,124 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合 名古屋市北区大曽根の三方道路に囲まれ、国道19号線の交差点に面して建設される、銀行の店舗ビルです。	その他 停電時の重要機器の72時間の電源供給や通信手段の多様化を図りBCP対策を行います。
Q1 室内環境 ガーデンウォールやフロントサッシを採用し昼光率を高くすることで採光の確保に努めました。 F★★★★をほぼ全面に使用しており化学汚染物質に対する配慮を行います。	Q2 サービス性能 天井高や階高は高く、充分な広さの執務スペースを設けることで使用する方が圧迫感を感じないようなゆとりのある設計としました。
LR1 エネルギー 太陽光パネルを屋上に設置。 LED照明の採用など、設備システムの高効率化を目指しました。	LR2 資源・マテリアル OAフロアや可動間仕切壁等のユニット部材を採用し、解体時におけるリサイクル促進に配慮した。 節水型機器の採用により、環境に配慮しました。
	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内に求められる緑化率にあった緑化計画を行いました。 舗装材は透水性の素材とし、側溝に流れる雨水を軽減に努めました。
	LR3 敷地外環境 屋上設備機器が露出しにくい配慮をし、周辺の景観を損なわないようにしました。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

OKB大垣共立銀行大曽根支店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.8
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.8



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。